

今日のトピック アジア株式市場の見通し

株価収益率はほぼ1年前の水準に低下、割高感後退

ポイント1 大幅調整となったアジア株式市場 直近高値から約8%の下落

- アジアの株式市場は、2月に入ってから世界の株式市場に連動して大幅に調整しています。MSCI AC アジア（除く日本）（アジア株価指数）は、1月26日の776.15ポイントをピークに2月8日現在711.25ポイントと8.4%の下落となりました。

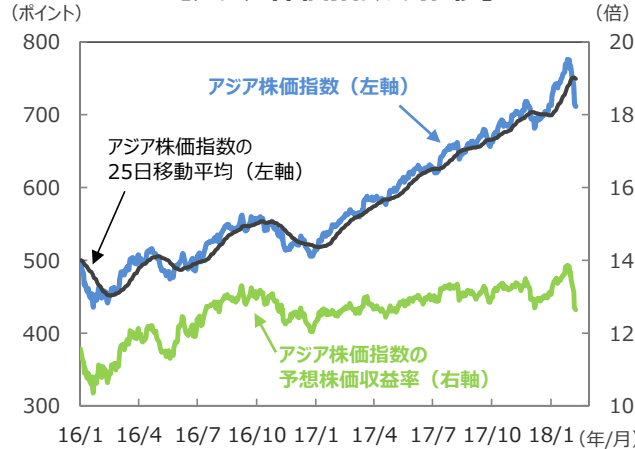
ポイント2 割高感が大きく後退 予想株価収益率はほぼ1年前の水準

- 株価が調整する中、予想株価収益率も大きく低下しました。予想株価収益率は2017年の年央以降概ね13倍台で推移していました。2017年末以降はさらに上昇し、ピッチの速さから2018年1月末には高値警戒感も出ていました。ただ、(1) 1株当たり予想利益が堅調に伸びている、(2) データの取得が可能で2004年から見ると、予想株価収益率はリーマン・ショックの時期を除けば概ね12倍台を中心に±2倍台程度で推移していた、などから、必ずしも割高とは言えないと考えられました。今回、株価が大きく調整したことによって、予想株価収益率は12.6倍と過去の平均的な水準まで低下し、割高感さらには後退しました。

今後の展開 予想利益の伸びは堅調 アジア通貨も堅調に推移

- 足元の調整は世界の株式市場に連動した下落であり、アジアの経済や企業収益に与える影響は今のところ確認できません。1株当たり予想利益は調整することなく堅調に推移しています。また、アジア通貨（対米ドル）も軽微な調整にとどまっています。今後は世界株式市場が安定する中で、アジア株式市場も落ち着きを取り戻すと期待されます。

【アジア株価指数の推移】

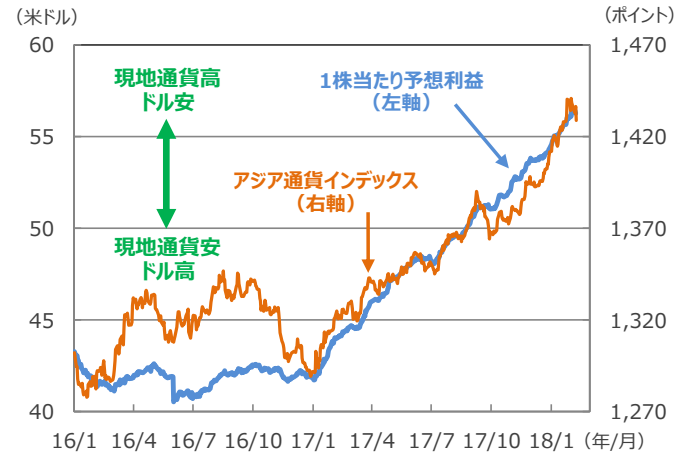


（注1）データは2016年1月1日～2018年2月8日。

（注2）アジア株価指数はMSCI AC アジア（除く日本）。予想株価収益率＝株価÷1株当たり予想利益。1株当たり予想利益はI/B/E/S予想。米ドルベース。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【1株当たり予想利益とアジア通貨インデックス】



（注1）データは2016年1月1日～2018年2月8日。1株当たり予想利益は2月7日まで。

（注2）1株当たり予想利益はI/B/E/S予想。米ドルベース。アジア通貨インデックスはMSCI AC アジア（除く日本）米ドルインデックス。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年2月7日 NYダウ下落局面での各種資産の騰落率 2018年2月6日 日米株式市場の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。